

表 平成19年度第3年次編入学募集学科・募集人員

学部	学科名	募集人員	募集コース名	募集人員
工学部	生命工学科	11人		11人
	応用分子化学科	5人		5人
	有機材料化学科	5人		5人
	化学システム工学科	5人		5人
	機械システム工学科	16人	航空宇宙エネルギーコース	16人
			知能制御デザインコース	
	電気電子工学科	20人	電気電子システム工学コース	20人
電子メディア工学コース				
情報コミュニケーション工学科	8人	コンピュータ工学コース	8人	
		コミュニケーション文化科学コース		
	計	*70人	計	70人

\*編入学定員70人の中に、推薦入学・学力検査・社会人特別選抜を含む

# 東京農工大学における第三年次編入学制度 ～編入学状況とサポート体制～

●事例紹介

中村 暢文

(東京農工大学大学院共生科学技術研究院助教授・工学部編入学部会部長)

はじめに

東京農工大学では、広く社会への門戸を開くことを目的として、高等専門学校の卒業生及び卒業予定者、学士号取得者、大学に一定期間以上在学した者、短期大学の卒業生及び卒業予定者、専修学校の専門課程の修了者及び修了予定者、更に社会人として一年以上の経歴を有する者について、本学の専門教育を履修する機会を提供する編入学制度を設けている。工学部では特別編入学の制度に始まり、平成六年度から第三年次編入学としてほぼ現在の形の編入学制度となった。本稿では、本学工学部の第三年次編入学状

況及び、主として高等専門学校の卒業生及び卒業予定者に対する編入学後のサポートについて紹介する。

## 一 本学の第三年次編入学状況

平成一九年度の募集人員を表に示す。若干の増減はあるものの、平成七年度から工学部全体で約七〇名の募集人員となり、実際の入学者もここ数年は外国人留学生も含めると九〇名前後である。編入学者のほとんどは高等専門学校卒業生及び卒業予定者であり、本学工学部は、最も多くの高等専門学校卒業生を受け入れている工学部の一つである。

## 二 編入学生への学内サポート体制

第三年次編入学生が多いとはいえども、各学科あたりでみるとそれほど多くはなく、各学科に一人以上いる編入学委員が一人一人に対して生活指導、履修指導などを行える状況にある。そのため、学部全体としてサポートする体制をとる必要はなかった。また、今後もその予定はない。ただし、学科単位では、大学生活を一から始める編入学生に対し、大学生活に直ちに馴染めるようにそれぞれに工夫したサポート体制をとっている。

編入学してきた後、編入学生が第一に戸惑うことは、カリキュラムの内容や履修の仕方のような一般の三年生にとつてはもはや当たり前になっていることである。そこで、ほとんどの学科では、入学式後に行われる新一年生と合同のオリエンテーションに加えて、編入学生のみに対する、履修上の注意、単位認定の注意、進路上的のアドバイス、学生生活上の注意などを行っている。また、先輩の編入学生との顔合わせ会などを実施することにより、履修に際して先輩からアドバイスを受けられる機会を設けている。さらに、六月初旬に中間オリエンテーションとして、授業の履

修状況及び学生生活状況について個別面接形式でオリエンテーションを行っている学科もある。

次に編入学生が不安を覚える点は、大学の一・二年次で学ぶ基礎科目と高等専門学校の高学年で学んだ科目との差異である。各学科は一年次から四年次までの全学年を見通してカリキュラムを組んでいるので、一・二年次で学んでおくべき基礎科目が抜けていると、場合によっては専門の授業についていけないということも起こりうる。

そこで、出身の高等専門学校のカリキュラムと各学科のカリキュラムを見比べた上で、一・二年次に開講されている基礎科目の履修を認めたり、また、積極的に履修を勧めたりする場合もある。

ほとんどの高等専門学校からの編入生は卒業研究を経験してきており、研究に対しての取り組み方や、自分の専門としてきた分野に対する知識は豊富にもっていることが多い。そのため、三年次にその学科の専門科目を学び、基礎科目の穴を埋めておくと、四年次に研究室に配属され、卒業研究に取り組む時には、持てる力を十分発揮できるようになる。

おわりに

第三年次編入学生にとって、講義中心の生活は三年次の一年間のみであり、四年次には直ちに卒業研究に取り組むことになる。いかに速く大学のシステムに馴染むかが最も重要であり、そのためのサポート体制としては、現状の各学科の編入学委員による個別のきめ細かい指導に勝るものはないと思われる。